# 点訳フォーラムＱ＆Ａ

2020年４月～2021年３月版

## その他

１．

ＮＨＫラジオ講座のテキストを点訳しています。

偉大な画家　un garan pintor　（× 大きな画家）
何もない。→ No hay nada.（× Hay nada）

この×（原本では全角）をどう点訳するか悩んでいます。
（１案）大きな画家は間違い
（２案）大きな画家ではない
（３案）バツ　大きな画家
放送を聞きながら読むということで、３案は単純にバツとしたものです。
こういう講座テキストの場合、一般的な問題集等の場合について、点訳方法をお教えください。

【Ａ】

このような意味で、×、〇があった場合、原文通りの位置に、バツ　マルと書くのが、基本的な書き方と言えます。
ご質問の場合も、３案がいいと思います。
（バツ■■オオキナ■ガカ）となります。
講座テキストや問題集、参考書などによって、書き方は種々ありますので、一概には言えませんが、１案、２案のように点訳した場合は、原文に書いてある部分と、点訳者が文章化した部分の判別がつきにくい恐れがあります。
たとえば、(「大きな画家」はバツ）程度の文章化でしたら、誤解はないのかもしれません。
原文通りの位置に「バツ」「マル」だけでは、わかりにくい場合もありますので、点訳者が補足することも避けられませんが、その場合は、できるだけ簡潔な補足を心がけることが大切と思います。

２．

イベントの案内などで、項目として日時と並べて「於　大会議室」と書いてあるのは、どのように点訳すればいいでしょうか。
「ダイカイギシツニテ」「ダイカイギシツニ■オイテ」などとしていいでしょうか。

【Ａ】

原文の文脈上不自然な読みとならないように、読むことになります。
「於　大会議室」は、一般には、「ダイカイギシツニ■オイテ」と書いてよいと思います。
類似の表現として「自2019年４月１日　至2020年３月31日」のように書かれている場合もあります。これも一般には、「～より～まで」と書いてよいと思います。総会資料の決算書などに用いられている場合は、期間を表しているとして「波線」を用いて書いてもよいと思います。

３.
原本に、次のような文章が出てきます。

新聞のチラシに漢字の書き取りをはじめた。昨日はうかんむりで楽勝だったから、今日はまだれに挑戦しよう。「麻、広、廣、??」止めた。簡単なさんずいをやってみよう。「池、海、流、??」、出てこない。さんずいならいくらでもあるはずなのに??

この様な漢字の書き取りの文章が何度も出てくるのですが、「広」「廣」のように読みが同じ字には点訳挿入符で説明が必要でしょうか。また、「流」の字のような場合、音読みでなく訓読みで「ナガレ」または「ナガレル」と読んでもいいでしょうか。
【A】
漢字を特定できるように書くには、音読みの後ろにカッコで囲んで訓読みを書いたり、送り仮名の部分はつなぎ符類の後ろに書いたり、いろいろ工夫が必要ですが、この場合は、原本の主な流れに漢字の特定が必須なわけではありませんので、推定ができればいいと思います。
このような文章が何度も出てくる場合は、点訳書凡例で、「漢字の説明は、音読み、訓読みのうち推定しやすい方を書いた。また訓読みの場合は送り仮名も含めて書いた。」のように断った方がよいと思います。
また、漢字は説明を書いていることを点訳書凡例で断っているので、（旧漢字）などは、第１カッコで囲んで書けます。また、部首も限定されているので、「麻」が「朝」では無いことなどは断る必要はありません。
アサ、■ヒロイ、■ヒロイ（旧漢字）
イケ、■ウミ、■ナガレル
などになります。

４.
原本に日記が記載されているのですが、その日記の一部が棒線で消されている所

があります。そんな場合、どう処理したらよいのでしょうか。
　例：今はわからないことの方が多い。わかることの方が多い。
と、ある文章の中の「わからないことの方が多い。」の部分が棒線で消してあります。
　　【A】
　イマワ■指示符類ワカラナイ■コトノ■ホーガ■オオイ。指示符類
　点挿 指示符メメ指示符デ■カコマレタ■ブブンニ■トリケシセンガ■
　ヒイテ■アル 点挿

のように、取り消し線の部分を指示符類で囲み、その後ろに点訳挿入符で指示符類に囲まれた部分が取り消し線で消してあることを断ればよいと思います。
　カギ類で囲んでもよいのですが、特殊な指定ですし、原文にない囲み記号なので指示符のほうが適していると思います。一般書の場合は第１指示符から用いることになっていますが、第３指示符でもよいと思います。
　ただ、原文の流れから、この削除部分を省略してもよい場合もあると思いますので、文脈から判断して、適した方を選択してください。

５．
　原本に辞書の抜き書きがあります。
　「原子」という語句の補記として、「ーーりょく　はつでん【原子力発電】原子炉で発生する熱エネルギーを利用した発電」とだけ説明がされています。
この「ーーりょく」の、「ーー」部分は見出し語の再掲ですが、この部分は「棒線を使う、点線を使う、伏字を使う」いずれが適切でしょうか。
　　【A】
　辞書の「ーーりょく」などは、見出し語と重複する仮名の部分ですので、この場合は、「ゲンシリョク■ハツデン」と書くことをお勧めします。
辞書の点訳では、この方法が定着しています。
　ゲンシリョク■ハツデン■ーー■ゲンシロデ■ハッセイ■スル■～
のような書き方になります。見出し語と語義説明の間は、棒線がいいと思いますが、二マスあけや、見出し語の前で段落を替えて書く場合は小見出し符類などもあると思います。

６．
　児童書（低学年向けの童話集）を点訳するのにどんなことに注意したらよいでしょうか。童話集なので１話ずつページを替えてもいいでしょうか。
　　【A】
　特に決まりはありませんが、童話集であれば、１話１話異なったお話しですので、

ページを替えて書いてもよいと思います。なお、紙を替えるのではなく、ページを替えるので、奇数ページで一話が終われば、次は、偶数ページから始まります。
低学年向けの童話の点訳では、「てびき」ｐ25【処理１】にある特殊音は用いず、読みやすさに注意します。また、注記があっても文中注記符を用いることは避けます。短い童話ですから、１話ごとに仕切りのための線を入れるなどして、注記が入っている語と説明を棒線でつないで入れるなどします。

できれば、記号類も句読符・カギ類・カッコ類・線類・第１つなぎ符くらいで点訳するよう工夫します。

「サピエ」にアップする場合は、その図書の点訳ですので、「保護者の方へ」などがあっても、すべて点訳してアップします。

点字を読み始めた人（児童）や点字習得のために依頼される場合は、18行で、片面だけの入力にしたり、タイトルと本文だけにして、注や「保護者の方へ」などは省略するなどの配慮をすることもありますが、これは個々の対応になります。